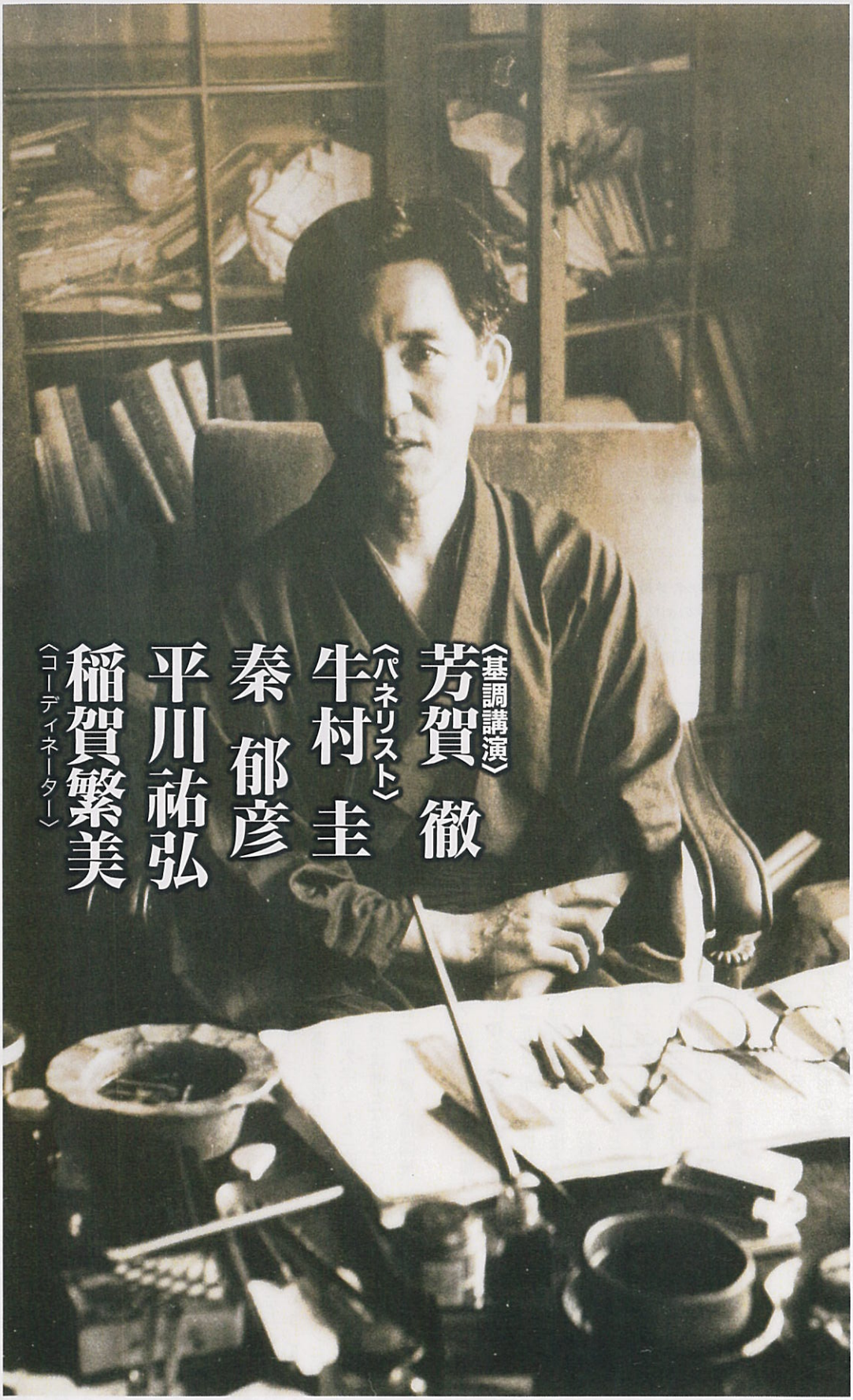
〈『竹山道雄セレクション』全4巻　完結記念シンポジウム〉

# 今なぜ、竹山道雄か

## 真の「リベラリスト」から、今、学ぶものとは何か



〈基調講演〉芳賀 徹

〈パネリスト〉牛村 圭

秦 郁彦

平川祐弘

〈コーディネーター〉稲賀繁美

【日時】2017年11月28日（火）　18:00開会（17:30開場）

【会場】アルカディア市ヶ谷（私学会館）「富士」（3F）
（東京都千代田区九段北 4-2-25　ＪＲ・地下鉄「市ヶ谷」駅徒歩２分）

【入場料】〈一般〉2000円　〈学生〉1500円（学生証提示）

【主催】藤原書店

【申込み・問合せ】〒162-0041　東京都新宿区早稲田鶴巻町523 藤原書店
電話03-5272-0301　FAX03-5272-0450

現在では国民的文学作品『ビルマの竪琴』の著者として知られる竹山道雄（一九〇三―八四）。ドイツ文学から出発した竹山だが、昭和戦前の早くから欧州留学を経験することで、ヨーロッパと日本に対する比較の視点を我がものとし、『昭和の精神史』『まぼろしと真実』『剣（つるぎ）と十字架』その他の著作によって、戦前の軍国主義やナチズム、ソ連・東欧・中国の専制主義を鋭く批判、リベラリズムの論陣を貫いた論客でもあった。

他方で、その幅広い教養と複数の文明を俯瞰する比較の視点は、国内外を旅し、伝統文化を玩味しその美を書き留める、すぐれた随筆の数々にも結実している。

国境を越えた人的・文化的接触がもはや日常化している半面、それにともなう軋轢やファナティックな反応が増幅される現象も顕著となっている昨今、竹山道雄という存在から汲み取ることができるものは計り知れない。

去る五月の『竹山道雄セレクション』全四巻完結、および十一月刊行の『手紙を通して読む 竹山道雄の世界』の出版を記念した本シンポジウムでは、竹山とその仕事をよく知る、世代を超えた論者をお招きし、「今、竹山道雄から何を学べるか」を徹底的に論じていただく。

## 登壇者プロフィール

### 〈基調講演・シンポジウム〉

**芳賀 徹** *Haga Toru*

1931年生。比較文学・近代日本比較文化史。東京大学・国際日本文化研究センター名誉教授。主著に『大君の使節』（中公新書）『平賀源内』（朝日選書、サントリー学芸賞）『絵画の領分』（朝日選書、大佛次郎賞）『藝術の国日本 画文交響』（角川学芸出版、蓮如賞）他。

### 〈シンポジウム〉

**牛村 圭** *Ushimura Kei*

1959年生。博士（学術）。国際日本文化研究センター教授。比較文化論・文明論。主著に『「文明の裁き」をこえて』（中央公論新社）『「戦争責任」論の真実』（PHP研究所）他。

**秦 郁彦** *Hata Ikuhiko*

1932年生。日本政治外交軍事史。元千葉大学・日本大学教授、プリンストン大学客員教授。主著に『日中戦争史』（河出書房新社）*HIROHITO - The Showa Emperor in War and Peace*（Global Oriental）他。

**平川祐弘** *Hirakawa Sukehiro*

1931年生。比較文学比較文化。東京大学名誉教授。竹山道雄の女婿にあたる。主著に『和魂洋才の系譜』『西欧の衝撃と日本』『小泉八雲』（サントリー学芸賞）『ラフカディオ・ハーン』（和辻哲郎文化賞）他。『平川祐弘決定版著作集』全34巻（勉誠出版）刊行中。

### 〈コーディネーター〉

**稲賀繁美** *Inaga Shigemi*

1957年生。比較文学比較文化、文化交流史。国際日本文化研究センター副所長、総合研究大学院大学教授。主著に『絵画の黄昏』『絵画の東方』『絵画の臨界』『接触造形論――触れ合う魂、紡がれる形』（以上、名古屋大学出版会）他。

## 竹山道雄とは……

一九〇三～一九八四年。

一九二〇年旧制第一高等学校入学、一九二三年東京帝国大学文学部入学、一九二六年東京帝国大学卒業後、一高の講師となる。二〇代でベルリン、パリに計三年間留学、帰国後、一高の教授となる。

一九四八年『ビルマの竪琴』（中央公論社）を刊行、毎日出版文化賞を受賞（以後、二度に渡り映画化される）。一九五〇年一高廃止と共にその後身の東京大学教養学部の教授となるが、翌年には辞し、文筆に専念する。『新潮』『芸術新潮』『心』『文藝春秋』『自由』などを舞台に、「見て・感じて・考える」を根本姿勢とし、時代の風潮に流されない執筆活動を続ける。

著書は『古都遍歴』『昭和の精神史』『まぼろしと真実』『剣と十字架』など、芸術論から時論、紀行文など幅広い。

また、ニーチェ『ツァラトストラかく語りき』『善悪の彼岸』イプセン『人形の家』ゲーテ『若きエルテルの悩み』など優れた翻訳も残す。

一九八三年『竹山道雄著作集』全八巻刊行。二〇一六～一七年『竹山道雄セレクション』全四巻刊行。平川祐弘による評伝『竹山道雄と昭和の時代』、同じく平川編著『手紙を通して読む竹山道雄の世界』（共に藤原書店刊）がある。


## 竹山道雄セレクション（全四巻）

平川祐弘 編

### Ⅰ 昭和の精神史 四八〇〇円

Ⅰ昭和の精神史／将軍達と「理性の詭計」／ハイド氏の裁判／天皇制について／国体とは／昭和史と東京裁判 Ⅱ昭和十九年の一高／若い世代／春望 Ⅲ独逸・新しき中世？／失われた青春／幻影／国籍 Ⅳ台湾から見た中共（抄）／ペンクラブの問題／時流のファナチズム

◉解説 **秦郁彦** ◉竹山道雄を読む **牛村圭**

### Ⅱ 西洋一神教の世界 四八〇〇円

Ⅰ妄想とその犠牲／『ツァラトストラかく語りき』訳者あとがき Ⅱ聖書とガス室／ユダヤ人焚殺とキリスト教／パテレンに対する日本側の反駁／一神教だけが高級宗教ではない Ⅲソ連地区からの難民／剣と十字架――ドイツの旅より（抄）Ⅳソビエト見聞（抄）

◉解説 **佐瀬昌盛** ◉竹山道雄を読む **苅部直**

### Ⅲ 美の旅人 五八〇〇円

Ⅰスペインの贋金／希臘にて／北京日記 Ⅱ蓮池のほとりにて／フランス滞在（抄）／たそがれのパリ女たち／若いゲーテの転向／ソウルを訪れて／高野山にて／西の果ての島／タイレのこと Ⅲ暗示芸術／構成芸術／六波羅蜜寺／海北友松／賀茂神社の方へ／神魂神社 Ⅳ日本文化の位置他 〔附〕索引・年譜・著作一覧

◉解説 **芳賀徹** ◉竹山道雄を読む **稲賀繁美**

### Ⅳ 主役としての近代 五八〇〇円

Ⅰ知られざるひとへの手紙／思い出／あしおと／磯／砧／亡き母を憶う／寄寓／きずあと／樅の木と薔薇／主役としての近代／焼跡の審問官 Ⅱむかしの合理主義／ビルマから東パキスタンへ／キリスト教への提言／人権のための人権侵害／片山敏彦さんのこと／亡き三谷先生のこと／私の八月十五日／戦野に捨てられた遺骨へのとむらい／オランダ通信／鎌倉・人工の浸食／アメリカからの「招待」／新聞コラム（毎日・東京・サンケイ・読売）他 Ⅲものの考え方について／死について／突然の死／死ぬ前の支度 〈附〉竹山道雄を語る 本多秋五／富士川英郎／本間長世／高橋英夫

◉解説 **平川祐弘** ◉竹山道雄を読む **大石和欣**

## 竹山道雄と昭和の時代

平川祐弘＝著

各紙誌で大反響の決定版評伝。◎好評3刷 五八〇〇円


＊表示の価格は本体価格